

春楚製菓通信4月号

柱の傷

「柱の傷はおととしの～」昔習ったこの歌、「なぜ、おととしなの？」と思った方はいませんか？「せいくらべ」の作詞者、海野厚さんは明治に静岡市曲金の7人兄弟の長男として生まれ、弟妹を残して早大へ進学したそうです。(小生は次男ですが、同県同校なので勝手にご縁を感じてしまいます。)そして毎年5月になると帰省し兄弟の身長を測っていたようです。しかし進学中に、戻れない年があったそうです。そこで厚さんは翌年自分が帰ることを想定して、故郷で帰りを待つ弟たちの気持ちになって作詞した、とのこと。実はこの話は続くのですが紙面の関係もあり、またの機会とさせていただきます。

さて歌にもある通り、もうすぐ端午の節句、柏餅の季節が近づきました。柏の葉は、新芽が出ないと古い葉が落ちないので、これを「子が産まれるまで親は亡くならない」=「家系が途絶えない」という縁起に結びつけ、「柏の葉」=「子孫繁栄」という意味を持たせています。あなたの家の柱には傷がありますか？私の家には姉兄とせいくらべをした鉛筆の跡がクッキリ残っていました。自分が子供の頃を思い出しながら、もしくはお子様、お孫さんの成長を願いながら柏餅を召し上がってはいかがでしょうか。



当店では白餅(こし餡:左)、草餅(つぶ餡:右)、の2種類を用意しています。126円, 期間限定

春楚製菓 TEL/FAX 054-375-2310

info@haruno.com <http://www.haruno.com>